

令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立瑞穂野中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

中学校 第2学年 (国語, 社会, 数学, 理科, 英語, 質問紙)

4 本校の実施状況

第2学年	国語	114人	社会	114人	数学	114人
	理科	114人	英語	114人		

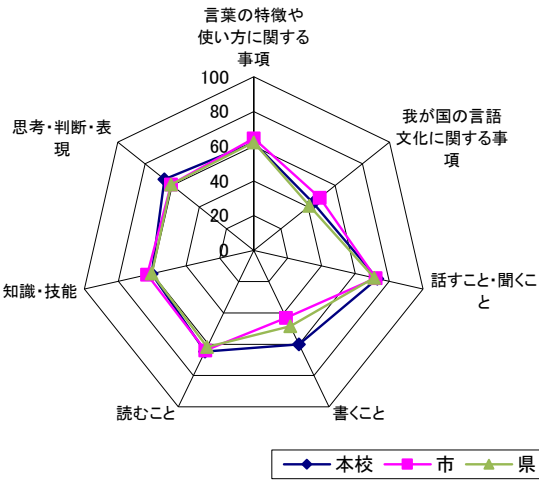
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」, 「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立瑞穂野中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	62.1	64.5	62.3
	我が国の言語文化に関する事項	43.9	48.7	41.1
	話すこと・聞くこと	73.0	72.1	71.2
	書くこと	60.1	43.1	48.5
	読むこと	64.7	63.9	61.8
観点	知識・技能	60.3	62.9	60.1
	思考・判断・表現	65.6	60.8	60.8



★指導の工夫と改善

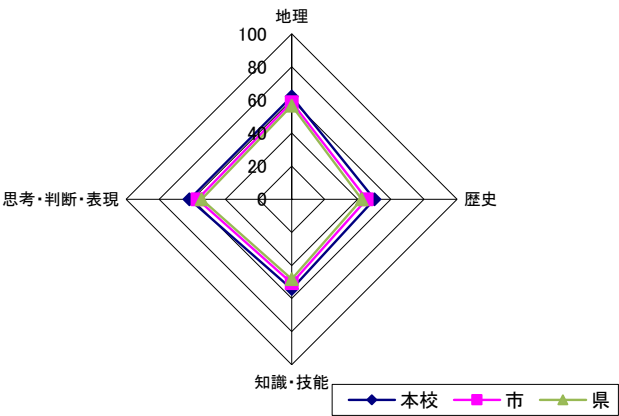
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	正答率は県を0.2ポイント、市を2.4ポイント下回っている。 ○漢字の読みの正答率は県と同程度である。また、文節どうしの関係についての正答率が高い。 ●漢字の書きの正答率が県より低い。漢字に関してできる問題とできない問題の差が大きい。また、表現技法に関する知識理解が不十分である。	・漢字の読み書きについては、引き続き小テストなどを通して強化を図る。 ・敬語に関する問題や表現技法に関する問題を多く取り扱い、基礎的な知識の定着を図る。
我が国の言語文化に関する事項	正答率は県を2.8ポイント上回り、市を4.8ポイント下回っている。 ○歴史的仮名遣いから現代仮名遣いに直す問題の正答率は県より高い。 ●歴史的仮名遣いから現代仮名遣いに直す問題の正答率が市より低い。	・歴史的仮名遣いに関する正答率が50.0ポイントを下回っているため、上回るようにしたい。基礎の確認や問題の解き直しの機会を設け、強化する。また、古典の文章を読ませる機会を増やし、定着を図る。
話すこと・聞くこと	正答率は県を1.8ポイント、市を0.9ポイント上回っている。 ○根拠を明確にして話の構成を考えることや、必要に応じて記録を取りながら話の内容を捉えることはできている。 ●条件に従って、話合いのまとめをする作業が苦手な傾向にある。	・全体的には正答率が高いので、話合い活動を通じた話す力、聞く力の育成は図れている。ただし、その結果を集約する力や、話合いの結果から自分の考えを構築する力が不十分であるため、そこまでしっかり指導する。
書くこと	正答率は県を11.6ポイント、市を17.0ポイント上回っている。 ○指定された指示通りに書くことができている。 ●根拠を明確にして自分の考えを書く力が不十分である。	・書き方の技能(字数指定、段落構成など)は備わっているため、現在の指導を継続する。 ・読み取った内容を明確にして書く力も備わっている。 ・自分の考えを書く力が不十分なので、作文等で練習する機会を増やしていく。加えて、明確な根拠の述べ方にも触れる。
読むこと	正答率は県を2.9ポイント、市を0.8ポイント上回っている。 ○正答率が県を上回っているものが多い。中には10.0ポイント以上高いものもある。 ●同じ出題内容であっても、問われ方によりできるものとできないものの差が大きくなる傾向にある。	・文章を読んで、自分の考えを確かなものにする力は高い。また、情景描写から人物の心情変化を読み取る力も高い。基本的な読み方は、説明文も物語も今の状態を継続する。 ・物語において、場面の展開から人物の心情変化を読み取る力が不十分なので、丁寧に展開を追う読み方について指導する。

宇都宮市立瑞穂野中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理	62.1	58.7	56.6
	歴史	50.1	45.4	42.4
観点	知識・技能	54.2	50.7	48.2
	思考・判断・表現	61.7	56.9	54.4



★指導の工夫と改善

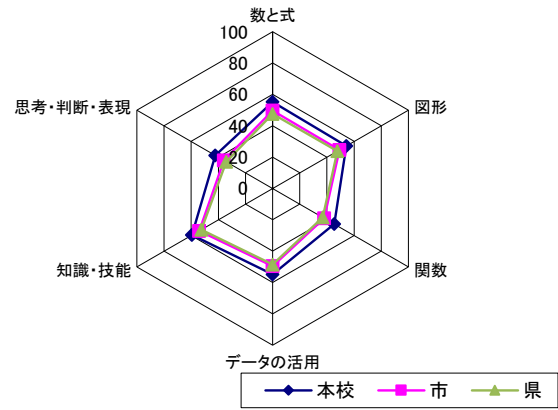
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理	正答率は、県を5.5ポイント上回り、市を3.4ポイント上回った。 ○「世界の姿」で7.5ポイント、「日本の姿」で3.6ポイント、「世界の諸地域」で8.9ポイント県の正答率を上回った。 ○様々な図法の地図の特徴と読み取りの問題では、県を大きく上回った。 ○アンゴラの経済の特徴を記述する問題で、県を大きく上回った。 ●時差についての問題は、0.7ポイント県の正答率を下回った。 ●アメリカの農業の特色を資料から考察する問題は、2.4ポイント県の正答率を下回った。	・資料を精選し、読み取りの際には分布や変化に注目させ、読み取りの視点を明示したうえで考察させる指導を継続する。 ・ICT機器や世界各地の人々の生活の動画を効果的に活用して、各地の生活に興味を高めさせる。 ・複数の資料から各地の生活の特色を読み取らせる指導を随時行う。 ・気付いたことを発表させる言語活動の展開を充実させる。
歴史	正答率は県を7.7ポイント、市を4.7ポイント上回った。 ○すべての単元(時代)において県の正答率を上回った。 ○「原始」で5.8ポイント、「古代」で17.6ポイント、「中世」で5.7ポイント県の正答率を上回った。 ○古代の日本の対外関係についての問題については、20.5ポイント県の正答率を大幅に上回った。 ○資料をもとに遣唐使の停止の理由を考える問題については、15.4ポイント県の正答率を上回った。 ●大化の改新の概要の理解の問題については、県の正答率を5.4ポイント下回った。	・「原始・古代までの日本」については、時代のまとまりをしっかりと捉えて、時代を代表する人物や歴史的事象を通して、歴史の学習に関心を高められるよう指導を工夫する。 ・「中世の日本」については、身近な中世の史跡や人物を図書資料やICT機器で分かりやすく紹介し、理解を深め関心を高める指導を工夫して行う。 ・より多くの資料をもとにした考察、表現の問題に対応できるようにするために、数多くの資料を活用し、資料活用の視点、解釈の仕方などを中心に正しく読み取れるように指導の工夫を図る。

宇都宮市立瑞穂野中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	55.2	49.7	47.6
	図形	54.2	49.2	47.7
	関数	45.3	38.0	36.8
	データの活用	54.8	49.6	48.5
観点	知識・技能	59.4	54.0	52.5
	思考・判断・表現	42.2	35.8	34.1



★指導の工夫と改善

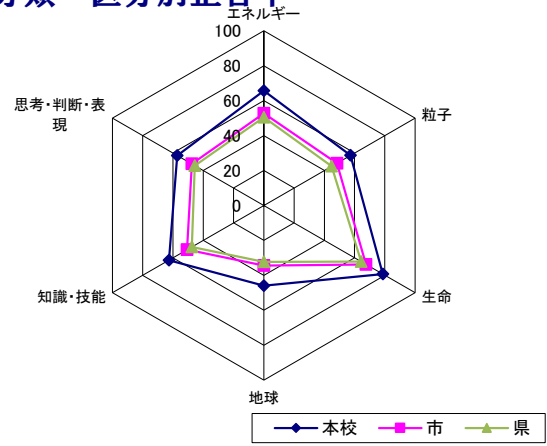
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	正答率は、市を5.5ポイント、県を7.6ポイント上回った。 ○四則の混じった計算や1次方程式を解くなど、基本的な計算を問う問題の正答率は、県を10ポイント以上上回った。 ●法則を見つけ出し、文字を使って表す問題の正答率は、17.5ポイントと低く、また無回答率も高かった。	・基本的な計算の定着が継続できるように、2年生の授業においても、1年生の復習問題を取り入れる。 ・事象の中から法則を見つける力を育てるために、表を用いて考えさせ、表の中の数字に着目させながら法則を見つける活動を取り入れたい。また、文字を用いた式を数学的な表現を用いて説明する活動をも取り入れ、深い理解に繋げる。
図形	正答率は、市を5ポイント、県を6.5ポイント上回った。 ○図形の移動や作図を問う問題の正答率は、県を10ポイント以上上回った。 ●おうぎ形の面積や円の面積を問う問題の正答率は、県を2.4ポイント下回った。 ●球の表面積を問う問題の無回答率が高かった。	・円の面積やおうぎ形の面積、球の表面積を求めるには、公式を使いこなす必要があるため、演習に力を入れ、公式を使う場面を増やしていく。また、この公式でなぜ求まるのかも押さえていきたい。
関数	正答率は、市を7.3ポイント上回り、県を8.5ポイント上回った。 ○動点問題の正答率は、県を10ポイント以上上回った。 ●グラフの特徴を読み取り、理由を説明する問題の正答率は、県を10ポイント以上上回っているが、無回答率は高かった。	・グラフと事象を結びつける思考力を養うために、デジタル教科書内にある映像や図を活用し、グラフの形と事象の状況を繋げる活動を取り入れたい。
データの活用	正答率は、市を5.2ポイント、県を6.3ポイント上回った。 ○度数分布表から累積度数や相対度数を求める問題の正答率は、県のポイントを上回った。 ●ヒストグラムを読み取る問題の正答率は、5割以下で、説明問題の無回答率も高かった。	・ヒストグラムから読み取れる情報はたくさんあるため、どの情報がより正確に読み取れるのか、どの情報が適切なのか、より細かく分析する指導を取り入れたい。

宇都宮市立瑞穂野中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	65.7	52.7	50.5
	粒子	57.2	48.3	44.9
	生命	78.7	67.6	64.4
	地球	45.9	34.4	32.3
観点	知識・技能	62.7	50.7	47.6
	思考・判断・表現	57.2	47.6	45.6



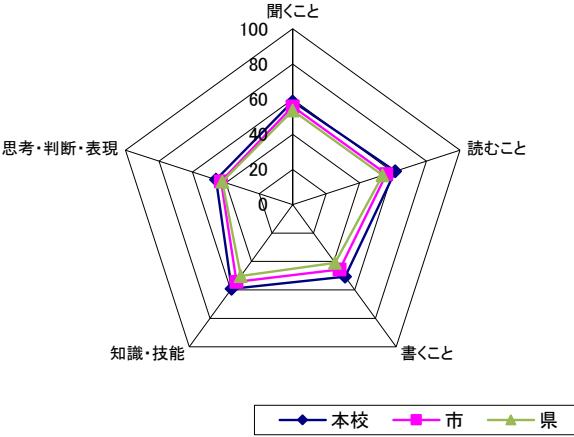
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	正答率は市を11.1ポイント、県を13.8ポイント上回った。 ○すべての問題の正答率が市・県よりも高い。 ○虚像の作図問題では、市を27.7ポイント、県を32.7ポイント上回った。 ○おもりにしたばかり重力とばねの伸びの関係のグラフ化問題では、正答率が85.1%であった。市を22.7ポイント、県を26.2ポイント上回った。 ●ばねの先におもりつけたときの重力とつりあう重力の問題では、市、県よりも10ポイント以上上回っているが、正答率は5割以下であった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・光、音、力のそれぞれの実験では、ねらいを明確にして仮説を立てさせ、実験結果を根拠とした考察を繰り返し、捉えにくい物理現象の見方、考え方の基礎を養う。 ・凸レンズの像の作図では、光の直進や屈折など、光の性質を確認しながら取り組みませ、小テストやテストの振り返りに取り組み定着を図る。 ・物体にはたらく力の作用点を説明して明確に示し、その都度作図に取り組みさせる。
粒子	正答率は市を8.9ポイント、県を12.3ポイント上回った。 ○すべての問題の正答率が市・県よりも高い。 ○メスシリンダーの使い方の問題では、正答率が78.1%であった。市を20.0ポイント、県を26.4ポイント上回った。 ○蒸留の実験結果をもとにあてはまるものを選び、蒸留の名称を答える問題では、市を14.1ポイント、県を18.9ポイント上回った。 ●水溶液を粒子のモデルで表す問題では、市を8.1ポイント、県を9.3ポイント上回っているが、正答率は3割以下であった。	・章ごとに学ぶ「物質の性質を利用して物質を区別する方法」を章が終わるごとに振り返り、整理してまとめさせる。 ・物質の区別では、生命分野で既習の分類方法を振り返り、理解を深める。 ・水溶液では、粒子モデルの考え方を丁寧に指導する。水溶液の色の濃さ、濃度の大小を可視化するときは、粒子の個数や散らばり方、間隔、粒子の大きさなどに関連付けて粒子モデルを書かせるように指導する。また、生徒同士に互いのモデル図を説明させるなどして考えさせる。
生命	正答率は市を11.1ポイント、県を14.3ポイント上回った。 ○すべての問題の正答率が市・県よりも高い。 ○被子植物の花のつくりを類推する問題では、市を17.4ポイント、県を21.1ポイント上回った。 ○脊椎動物の分類の観点の問題では、正答率が92.1%であった。市を6.9ポイント、県を10.2ポイント上回った。	・生徒の関心が高い単元でもあり、意欲的に学習することができている。 ・植物、動物それぞれの基本的な分類方法の習得では、複数の生物同士を比較して共通点と相違点を見いだしていく思考の過程を繰り返し指導する。また、そのときに注目した生物の特徴の名称が知識として定着するように、図を書かせたり、表にまとめるなどし、視覚的にも印象付けられるよう指導する。
地球	正答率は市を11.5ポイント、県を13.6ポイント上回った。 ○すべての問題の正答率が県を上回った。 ○新生代の示準化石を選ぶ問題では、市を27.5ポイント、県を30.8ポイント上回った。 ○花崗岩のでき方について、時間的・空間的な視点で説明する記述式問題では、市を17.8ポイント、県を21.8ポイント上回った。 ●震度とマグニチュードの違いについて答える問題では、県より3.4ポイント上回ったが、市より3.1ポイント下回った。	・マグマの粘り気と火山の形・鉱物の種類・火成岩の種類などの事物現象を、写真や具体物を用いて比較したり関連付けたりし、相互的または一連の関わりをもつものとして理解できるように、発問の工夫や着眼点の助言をする。 ・火成岩のつくりの時間的な捉え方では、化学分野で既習の再結晶を振り返り、理解を深める。 ・年度末に取り組む単元なので、AI型個別学習ドリルを活用した学習を取り入れるなどして効果的に復習を行い、学習内容の定着を図る。

宇都宮市立瑞穂野中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	58.7	55.8	53.5
	読むこと	61.3	56.0	53.8
	書くこと	50.7	45.6	40.9
観点	知識・技能	59.2	54.3	50.2
	思考・判断・表現	45.9	42.9	42.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	平均正答率が市平均より2.9ポイント、県平均より5.2ポイント上回った。 ○絵の内容を適切に表す英文を選ぶ全ての問題で市、県の平均を上回った。中には10ポイント以上上回ったものもあった。 ●ガイドの説明を聞き、その概要として当てはまるものを選ぶ問題で市、県の平均をわずかに下回った。	・日常的なことを話題にしたスモールトークを授業の導入時に行う。 ・問題を聞いて答えることに慣れるために、本文の読み取りの際に本文を聞いて答える問題を意図的に多く行う。
読むこと	平均正答率が市平均より5.3ポイント、県平均より7.5ポイント上回った。 ○学校生活について書かれた英文を読み、その概要として当てはまるものを選ぶ問題では市、県を大きく上回った。 ●対話が成り立つよう、空欄に当てはまる語を書く問題では、わずかに市の平均を下回った。	・「読むこと」に重点をおいた授業で、書かれている内容の要点を考え、教科書本文の要約を行い、概要を理解する練習を行う。 ・問題文から根拠を見つけ、それに基づいて解答する力を身につけるために、問題に答えた際の根拠を示すように指導を行う。
書くこと	平均正答率が市平均より5.1ポイント、県平均より9.8ポイント上回った。 ○対話が成り立つよう、与えられた語を適切な形に変えたり、不足を補ったりして書く問題では、市と県の平均を大きく上回った。 ●与えられた情報を用いて、転入生の紹介文を書く問題では市の平均を下回った。	・自分の意見を英語で書くことができるように目的場面状況を意識した言語活動を設定する。 ・知識・技能を用いて与えられた日本語を英語にできるように、日本語を英語に直す問題の練習も定期的に行う。

宇都宮市立瑞穂野中学校 第2学年 生徒質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○(1)「家で自分で計画を立てて勉強している」(2)「家で学校の宿題をしている」(4)「家で学校の授業の復習をしている」では肯定割合が県より9%程度高い。(16)「勉強していておもしろい、楽しいと思うことがある」(17)「勉強していて 不思議だな ねえだろ」と感じることもある(18)「疑問や不思議に思うことはわかるまで調べたい」(19)「本やインターネットなどを利用して勉強に関する情報を得ている」では肯定割合が県より10%程度高い。学習に関して見通しをたてて計画的に行う、主体的に取り組もうとする態度があると言える。また、家庭での自主学習はその日の授業の復習に取り組む内容が多く、授業で分かりにくいと感じた内容の解決に向けて取り組む姿勢が伺える。そのことが(24)「学習に対して自分から進んで取り組んでいる」の肯定割合が県より9.5%高い結果につながったと考えられる。今後も自主学習の良い取り組みを紹介したり、定期テスト前の学習計画表を視覚化したりして、主体的な学習意欲や態度を育成していきたい。

○(75)～(113)の各教科の学習についての質問の中で理科や技術・家庭、学級活動の授業や学習内容に関する項目で肯定割合が県より高い。「英語の授業はよく分かりますか。」では県を大きく上回り、本校のスピーキングに力を入れた授業が功を奏していると考えられる。今後もさらに発展させ指導を継続していく。

○(61)「家の人と学校でのできごとについて話をしている」では、肯定割合が県より11%高い。学校生活が充実していることや、保護者も学校での様子に関心があることが考えられる。今後もHRの時間等を活用し、担任から日々の学校生活について保護者に話すように促すことで、肯定割合をさらに高め学校と保護者の関係も良好にすることにつなげたい。

○(26)「授業では自分の考えを発表する機会が与えられている」(27)「授業ではクラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」(32)「クラスの友達との間で話し合う活動を通して自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」(34)「クラスは発言しやすい雰囲気である」では肯定割合が県より高い。話し合う機会が設けられた授業が行われていること、学級の雰囲気が発言のしやすさに関わっていることが考えられる。今後も学びに向かう集団づくりに努めていく。

●一方(35)「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」では、肯定割合が県よりもやや低い。人前で発表することに関しては個人の苦手意識も関係するので、「自分の考えを一度整理する時間をとる」、「ペアや班での発表の後、全体発表を行う」「発表は、様々な見方や考え方を知る機会であることを確認する」などの指導の工夫をする。

●(93)社会(97)美術の項目が肯定割合が県よりも低い。「社会の学習が好きですか。」や「将来のために大切だと思いますか」の解答割合の問題解決のために、題材の工夫やICTを駆使し、魅力ある授業内容や指導を行っていく。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・基礎的・基本的内容の確実な定着 ・家庭学習の習慣化	・国語の毎時間の授業で行う漢字小テスト ・習熟度別数学授業での個に応じた基本的内容の定着 ・毎日取り組む家庭学習のノート提出	・生徒質問「自分で計画を立てて勉強をしている」「学校の宿題をしている」「学校の授業の復習をしている」「学校宿題はやりたくなる内容だ」において、肯定的割合が県の平均より8%程度上回った。また、自主学習の内容に関する「テストで間違えた問題について復習している」「学校や塾の宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」では、肯定的割合が県の平均より10%以上回った。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている」において、肯定的割合が県・市より低かった。	・授業目標(ねらい)の明示の継続 ・振り返る活動の充実	・単元や章など学習内容の区切りを適時として、振り返る活動に取り組む。・授業の「まとめ」は、分かりやすく簡潔にする。そのため、授業の「目標」を明確に示す。宇都宮モデル「はっきり・じっくり・すっきり」を生徒が実感しやすいようにする。・振り返りは、ワークシートなどに自分の言葉で「書く」、または、ICT機器を用いて取り組む。その後に発表・情報共有を行い、生徒相互の気付きにも注目する活動を継続する。